

2023年（令和五年） 3月31日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

■ 概況

3/16～3/22のNYMEX・WTI先物市場は66.74～70.90ドルの範囲で推移した。

3月23日は、エネルギー需給が緩むとの懸念から売りが優勢となり、反落した。5月限終値は前日比0.94ドル安の69.96ドルだった。

週末24日は、欧州の金融システム不安が再燃したことなどから、続落し、前日比0.70ドル安の69.26ドル。米ブルームバーグ通信は23日、ロシアの新興財閥（オリガルヒ）が経済制裁を逃れる手助けをした可能性があることから、米司法省がスイス金融大手のクレディ・スイスとUBSを調査していると報じた。両銘柄が売られると、ドイツ銀行など欧州主要銀の経営を巡る懸念も台頭、一部の銘柄が急落し、投資家のリスク警戒感が強まった。

週明け27日は、トルコがイラクからの送油を停止し、エネルギー供給懸念が高まったことから、3営業日ぶりに反発した。5月限終値は前日比3.55ドル高の72.81ドルと約2週間ぶりの高値を付けた。

28日は、中国のエネルギー需要拡大への期待感を背景に続伸し、前日比0.39ドル高の73.20ドルだった。中国石油天然気集団（CNPC）の調査部門、中国石油経済技術研究院（ETRI）は27日、今年の原油輸入量を6.2%増の5億4000万トン（日量1080万バレル）と予想。同国の新型コロナウイルス感染拡大防止策緩和に伴うエネルギー需要拡大への期待感から買いが先行した。

イラクのクルド自治区内にある油田からトルコを経由するパイプラインの稼働が先週末から停止しており、供給懸念が高

まっていることも原油の買いを促した。また、米ファースト・シチズンズ銀行による買収合意でシリコンバレー銀行の破綻処理にめどが付き、市場のリスク回避ムードを後退させたことも相場の支援材料となった。

29日は、不安定な商いとなったものの、終盤にかけて利益確定の売りが優勢となり、3日ぶりに反落し、5月限終値は前日比0.23ドル安の72.97ドル、6月限は0.22ドル安の73.12ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（5月渡し）は、3月16日～22日の間、71.50～74.70ドルの範囲で推移した。3月23日75.50ドル、24日75.10ドル、27日74.80ドル、28日77.20ドル、29日78.10ドルで推移した。

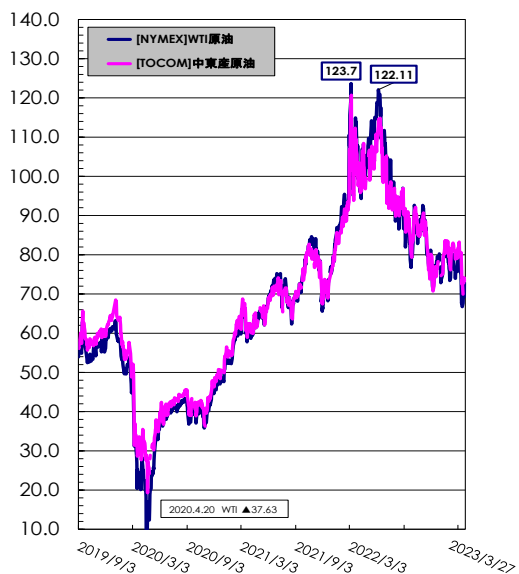
為替は、3月16日～22日の間、132.54～133.54円の範囲で推移した。3月23日130.92円、24日130.65円、27日130.65円、28日130.66円、29日131.28円で推移した。

財務省が3月30日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、3月上旬の原油輸入平均CIF価格は、72.206円で、前旬比1,007円安、ドル建て85.77ドルで前旬比2.24ドル安、為替レートは1ドル/133.84円だった。

そのような中で、3月27日時点の価格は、ガソリンが前週比0.5円の値上がり、軽油も同0.4円の値上がり、灯油は同3円の値上がり（18リットルベース）であった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油も2週連続の値上がりとなった。ガソリンの全国平均価格は168.0円であった。また、次週も燃料油価格激変緩和対策が発動され、補助金の支給額は8.1円となった。

原油		今週	前週比	前年比	
需給	原油処理量 (千kl)	3/19 ~ 3/25	2,882	▼ -108	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	77.7	▼ -3.0	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	3/25	10,572	▼ -95	▲ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	3/27	73.49	▲ 3.55	▼ -32.1
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	3/27	72.81	▲ 5.17	▼ -33.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月上旬	85.77	▼ -2.24	▼ -6.08
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	72,206	▼ -1,007	▲ 5,278
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	133.84	▼ -1.59	▼ -17.99
	外国為替TTSレート (¥/\$)	3/27	131.65	▲ 2.03	▼ -8.41

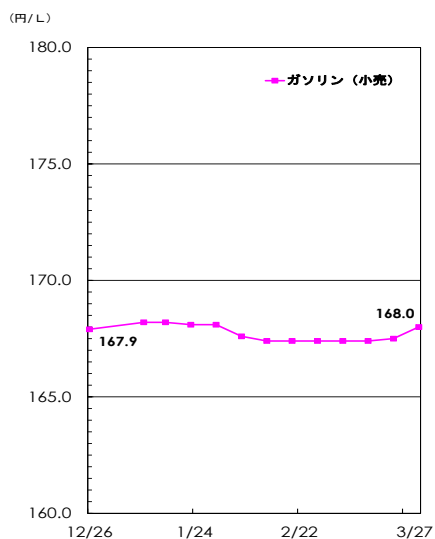
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	3/19 ~ 3/25	859 ▼ -75 ▲ -	
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	817 ▲ 63 ▼ -	
	輸出	"	111 ▼ -93 ▼ -	
	在庫	3/25	1,577 ▼ -69 ▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/21 ~ 3/27	75.8 ▲ 2.2 ▼ -2.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/21 ~ 3/27	73.0 ▲ 0.0 ▼ -9.4
		(TOCOM/中部)	3/27	73.6 ▼ -2.0 ▼ -8.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/27	168.0 ▲ 0.5 ▼ -6.0	

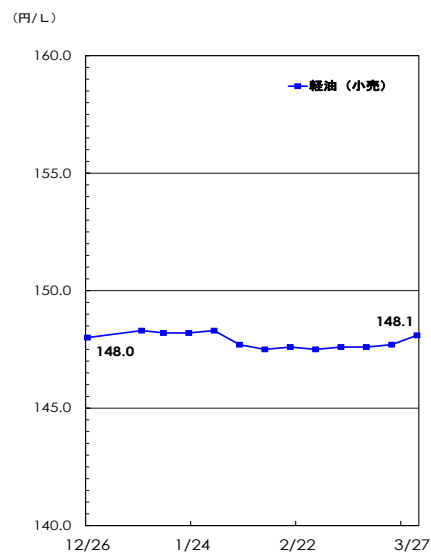
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

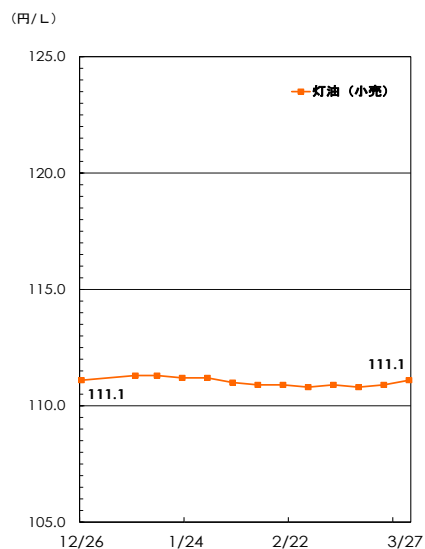
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	3/19 ~ 3/25	750 ▲ 39 ▲ -	
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	597 ▼ -15 ▼ -	
	輸出	"	99 ▼ -91 ▲ -	
	在庫	3/25	1,170 ▲ 55 ▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/21 ~ 3/27	76.8 ▲ 1.6 ▼ -2.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/21 ~ 3/27	78.0 ▲ 0.7 ▼ -13.1
		(TOCOM/中部)	3/27	- - -
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/27	148.1 ▲ 0.4 ▼ -5.6	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	3/19 ~ 3/25	269 ▲ 26 ▲ -	
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	232 ▲ 61 ▼ -	
	輸出	"	47 ▲ 47 ▲ -	
	在庫	3/25	1,235 ▼ -10 ▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/21 ~ 3/27	76.6 ▲ 1.1 ▼ -1.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/21 ~ 3/27	75.0 ▲ 0.0 ▼ -5.8
		(TOCOM/中部)	3/27	76.3 ▲ 0.0 ▼ -4.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/27	111.1 ▲ 0.2 ▼ -3.4	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(3月23日～29日)のWTI石油先物市場は、23日の69.96ドルで始まり、欧州の金融システム不安が再燃したことなどから、続落し、69.26ドルを付けたが、週明け27日からはトルコがイラクからの送油を停止したことや、中国のエネルギー需要拡大への期待感を背景に2日続伸、28日に73.20に回復、3月29日は、前日比0.23ドル安の72.97ドルで終わった。

3月29日発表の24日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計によると、原油在庫は前週比750万バレル減と、市場予想(10万バレル増)に反する取り崩しとなった。

EIAによると、3月27日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.1セント値下がりの1ガロン3.421ドル(118.8円/ℓ)と2週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比5.7セント値下がりの1ガロン4.128ドル(143.4円/ℓ)と8週連続の値下がりであった。

ベーカーヒューズ社によると、3月24日時点で、米国内稼働石油掘削装置は、前週比4基増の593基と6週振りに増加した。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年3月19日～3月25日に休止したトッパー能力は33.7万バレル/日で、前週に対して10.3万バレル/日増加した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は288.2万klと、前週に比べ10.8万kl減少。前年に対しては4.5万klの減少。トッパー稼働率は77.7%と前週に対して3.0ポイントの減少、前年に対しては1.6ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油、軽油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。

ガソリン/8.0%減、ジェット/12.6%減、灯油/10.9%増、軽油/5.5%増、A重油/8.7%減、C重油/10.3%増。今週のC重油の輸入は0.6万kl(前週比0.6万kl増)。軽油の輸出は9.9万kl(前週比9.1万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べて、軽油、A重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではジェットが増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は81.7万kl(対前週8.3%増)と4週振りに増加した。ジェット8.5万kl(対前週

112.5%増)、灯油23.2万kl(対前週35.7%増)、軽油59.7万kl(対前週2.5%減)、A重油19.2万kl(対前週17.0%減)、C重油16.3万kl(対前週25.1%増)。

(単位:千kl)

	今週 (3/19 ~ 3/25)	前週 (3/12 ~ 3/18)	前週比	
ガソリン	817	754	▲ 63	(8%)
ジェット燃料	85	40	▲ 45	(113%)
灯油	232	171	▲ 61	(36%)
軽油	597	612	▼ -15	(-2%)
A重油	192	231	▼ -39	(-17%)
C重油	163	130	▲ 33	(25%)
合計	2,086	1,938	▲ 148	(8%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月25日時点の在庫はジェット、軽油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

前年に対しては軽油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは157.7万kl、前週差6.9万kl減。前年に対しては6.1万kl多い。

灯油は123.5万kl、前週差1.0万kl減。前年に対しては12.0万kl多い。

軽油は117.0万kl、前週差5.5万kl増。前年に対しては8.9万kl少ない。

A重油は68.6万kl、前週差0.7万kl増。前年に対しては1.7万kl多い。

C重油は171.4万kl、前週差3.3万kl減。前年に対しては19.7万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (3/25)	前週 (3/18)	前週比	
ガソリン	1,577	1,646	▼ -69	(-4%)
ジェット燃料	752	746	▲ 6	(1%)
灯油	1,235	1,245	▼ -10	(-1%)
軽油	1,170	1,115	▲ 55	(5%)
A重油	686	679	▲ 7	(1%)
C重油	1,714	1,747	▼ -33	(-2%)
合計	7,134	7,178	▼ -44	(-0.6%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月21日～3月27日のドル建て中東原油価格は値下がりし、為替レートも円高で、元売会社の円建て原油コストは、月一回改定される中東産原油の値上げ(+0.2円)も加わえ、2.5円値下がりしたものと見られる。

上記コストダウンに先週の補助金額9.5円を加えたコスト上昇額7.0円に、今週も補助金8.1円が支給されることから、

3/30～4/5の元売会社の実質的な卸売価格は1.1円の値下がりとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

3月21日～27日の製品スポット市況は、3月14日～20日平均と比べ、ガソリンと灯油の先物取引の横ばいを除き、他の取引・油種で値上がりした。

直近週(3/21～3/27)の陸上スポット価格平均値は、前週(3/14～3/20)比で、ガソリンは2.2円の値上がり、灯油は1.1円の値上がり、軽油は1.6円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(3/21～3/27)に、前週(3/14～3/20)比で、ガソリンは1.6円の値上がり、灯油は1.0円の値上がり、軽油は1.5円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油も横ばい、軽油は0.7円の値上がりだった。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (3/21～3/27)	前週 (3/14～3/20)	前週比
	レギュラー	75.8	73.6
灯油	76.6	75.5	▲ 1.1
軽油	76.8	75.2	▲ 1.6

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値 平均]	今週 (3/21～3/27)	前週 (3/14～3/20)	前週比
	レギュラー	73.0	73.0
灯油	75.0	75.0	→ 0.0
軽油	78.0	77.3	▲ 0.7

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/21～3/27実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 2.2	→ 0.0	▲ 1.1
灯油	▲ 1.1	→ 0.0	▲ 0.5
軽油	▲ 1.6	▲ 0.7	▲ 1.1
A重油	▲ 1.8		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

3月27日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円高の168.0円、軽油も0.4円高の148.1円、灯油は18%ベースで3円高の2,000円(1%ベースでは0.2円高の111.1円)。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油も2週連続の値上がりだった。

ガソリンについて都道府県別には、値上がりは38都道府県、横ばいは1県、値下がり8府県だった。全国最安値は徳島県と宮城県で161.7円、その次は岡山県の162.4円であった。他方、最高値は長崎県の180.1円だった。

最も値上がりしたのは島根県と愛知県(前週比2.3円高)、横ばいは長崎県の1県、最も値下がりしたのは愛媛県(同1.4円安)だった。

次回調査時(4/3)のガソリンの小売価格は、横ばいもしくは小幅な値上がりが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (3/27)	前週 (3/20)	前週比	直近高値
レギュラー	168.0	167.5	▲ 0.5	08/8/4 185.1
灯油	111.1	110.9	▲ 0.2	08/8/11 132.1
軽油	148.1	147.7	▲ 0.4	08/8/4 167.4

小売価格

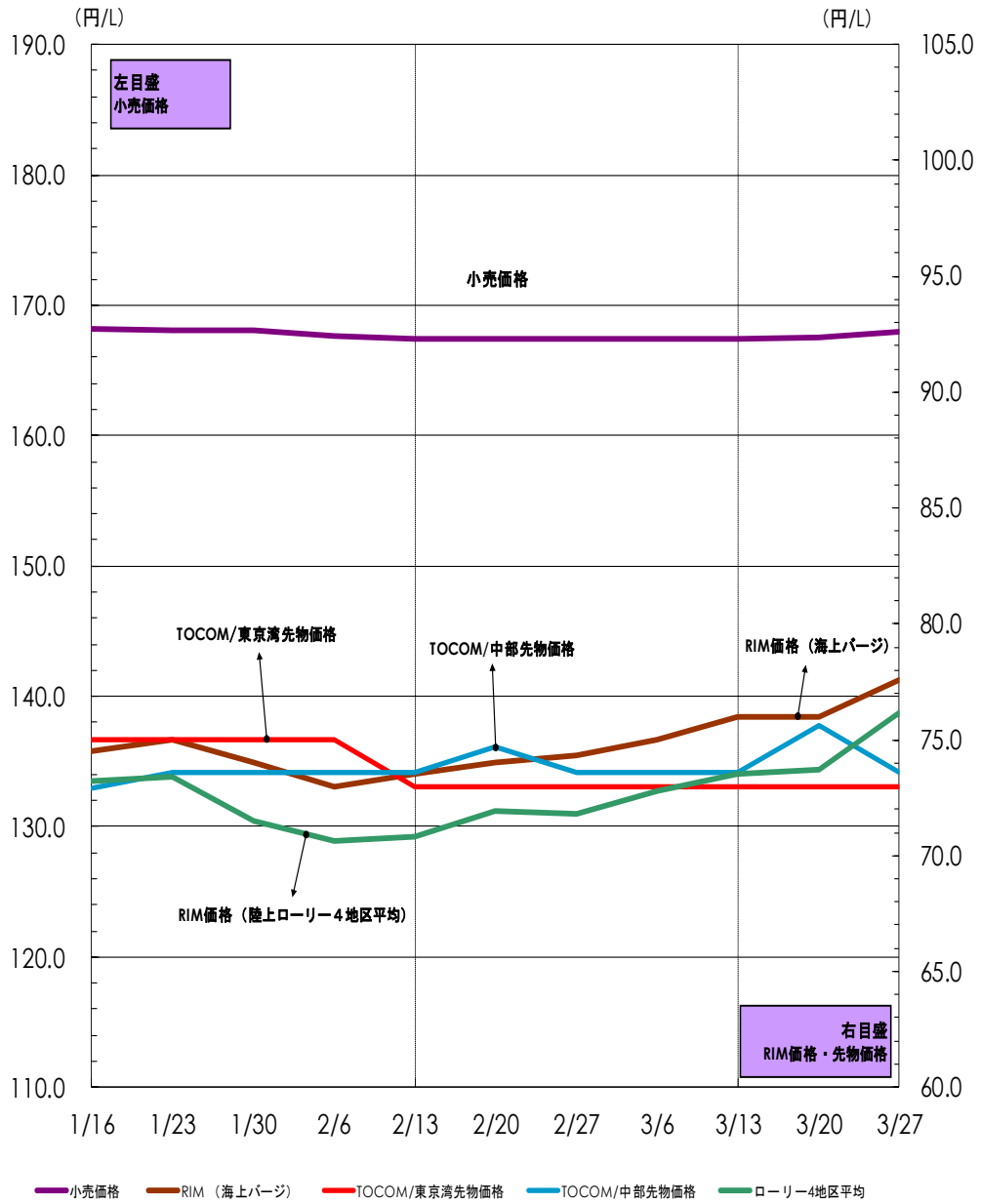
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/1/16 ~ 2023/3/27)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2023第1号)の公表は、4/7(金)14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。